

特集：国際学会参加報告

国際会議参加報告書—ゴードン研究会議第 18 回バイオミネラリゼーションミーティング

茅野 啓介（筑波大学 生命環境科学研究科博士後期課程 3 年）

私は、2008年8月10日（日）から15日（金）までコルビー・ソーヤ大学（米国、ニューハンプシャー州、ニューロンドン）において開かれたゴードン研究会議（Gordon Research Conferences）のバイオミネラリゼーション（Biom mineralization）ミーティングにポスター発表として参加し、研究分野についての意見交換を行った。

ゴードン研究会議は特定の研究分野や学際領域における研究者の直接的かつ密接なコミュニケーションを目的として行われる国際会議である。その特徴は参加者が会議場での発表を記録し或いはそれを公に発表するのを禁止されていることである。この約束の一方で、参加者は未発表の研究内容を発表することを求められていた。そのため、会議では最新の研究内容について議論や情報交換を行うことが可能となっていた。参加者は会場となった大学で約1週間寝食を共にする。私の参加したミーティングではサッカーやカラオケ等のレクリエーションも催された。会議は終始リラックスしてフランクな雰囲気で行われ、研究交流に留まらず人的な親睦を深めることもできた。

ゴードン研究会議のテーマは自然科学の様々な研究分野が細かく設定されており、2008年度は191のミーティングが行われる。バイオミネラリゼーションのミーティングは2年毎に開催されており、今年で第18回を迎える。元々は Calcium Phosphate と題され化学分野として区分されるセッションであったが、1996年からバイオミネラリゼーションと改名され、地球科学、物理、生物分野も含む学際的なセッションとなった。そのためか、バイオミネラリゼーションといいながらも化学を専門とする参加者が多いように感じられた。会議にはアメリカ、ヨーロッパの大学を中心として約160名が参加していたが、私が話をした大半の人間は化学を専門とする研究者であった。私が普段参加する国内のセミナーや学会では生物や地球科学を主とする研究者との交流が主である。したがって、海外のしかも化学の面からバイオミネラリゼーションを研究する人との意見交換は貴重なものであった。例えば、私はあるバイオミネラルに含まれる多糖がバイオミネラリゼーションに果たす機能を生理学的、分子生物学的手法で明らかにする研究を行っており、一方でその多糖が *in vitro* の結晶成長でどのような性質を持つか示すデータを発表していたのだが、その手法や理論的な考察について多くの意見をもらうことができた。

今回の会議における口頭発表は招待講演または選ばれたポスター発表者によるショートプレゼンテーションで、他の参加者はポスター発表のみとなっていた。ポスター発表は開催期間の前半を第一部、後半を第二部として行われた。私の発表は第二部であった。発表時間は自由時間のあと午後4時から夕食までの2時間となっていたが、会場は一日中オープンしており、参加者は飲食物を手に自由に出入りできた。したがって、自由時間に他の発表

者のポスターをじっくり眺めたり、一日目に聞いた発表を夜に反芻して二日目に質問したり、議論が高じれば多少延長して話をしたり、これまでに参加したどの学会のポスター発表よりも濃密な議論を行うことができた。

今回の会議には、バイオミネラリゼーション研究における大御所、中堅の先生、海外の研究室で精力的に研究を行うポスドクや大学院生など幅広い研究者が参加しており、研究分野における最新の知見だけでなく、世界的な研究の潮流も感じ取ることができた。さらに、自分の研究内容に対しては刺激的な意見や提案をもらうことができた。また、同じ研究を行う若手の研究者と知り合うことができたのは大きな収穫だった。今回の会議に参加して得られた経験は、今後自分の研究を行う上で大きく役立つものと期待される。

Communicated by Yoshihiro Shiraiwa, Received August 25, 2008.



コルビー・ソーヤ大学



参加者の集合写真